

JAZZ
研究部

TEIKYO HEISEI
UNIVERSITY



251

+ BLUESY

+ SESSION

+ GROOVE

【目次】

- ・ はじめに . . . p. 2
- ・ 枯葉 (Autumn Leaves) . . . p. 3
- ・ All of Me . . . p. 4
- ・ Moanin' . . . p. 5
- ・ Fly me to the moon . . . p. 6～7
- ・ Hit The Road Jack. . . p. 8
- ・ Take the A train . . . p. 9～10
- ・ 酒と薔薇の日々 . . . p. 11～12
- ・ ナウシカ・レクイエム . . . p. 12
- ・ 最後に . . . p. 13
- ・ JAZZ 研究部について . . . p. 14

【はじめに】

こんにちは！帝京平成大学 JAZZ 研究部です。

本日はお忙しい中、JAZZ 研究部の演奏をお聴きいただき誠にありがとうございます。フレッシュャーズ・カンファランス後のお時間にこのような演奏の機会を賜り、部員一同とても嬉しく思っております。

JAZZ 研究部は現在、薬学部の学生が 1 番多く所属しております。しかし、看護学科やメディア文化コース、保育幼稚園コースなど他にも様々な学部の学生が多く所属しており、JAZZ を中心に学部や学年の壁を越えて音楽を全力で楽しんでいる部活です。演奏経験が豊富な部員もいれば、大学から楽器を始めた部員もあり、日々練習を重ねながら音楽に向き合っています。演奏以外にも、JAZZ の歴史について調べたり、ジャズ喫茶に行くなど、JAZZ の文化に触れる研究活動も行っています。

JAZZ は演奏者ごとのアドリブや演奏の仕方によって、同じ曲でも毎回異なる表情を見せてくれる音楽です。本日の演奏でも、ひとりひとりの音色や演奏の雰囲気を感じて、皆様の自由な受け取り方でお楽しみいただければ幸いです。

この冊子には、楽曲の紹介や歴史をまとめてみました。お時間がある時に歌詞も調べていただくとより一層演奏をお楽しみいただけるかと思えます。是非演奏を聴きながらこの冊子を読んでいただき、JAZZ に馴染みのある方はもちろん、普段あまり聴く機会のない方にも、演奏をより身近に感じていただければと思います。

短い時間ではありますが、JAZZ を通して皆さまと楽しいひとときを共有できれば幸いです。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

帝京平成大学 JAZZ 研究部

【枯葉 (Autumn Leaves)】

「枯葉 (Les Feuilles Mortes)」は、1945 年にジョゼフ・コズマが作曲し、ジャック・プレヴェールが詞をつけたフランス発の名曲です。哀愁漂う短調のメロディと 6/8 拍子のヴァース、4 拍子のコーラスが織りなす構成は、戦後のシャンソンとして多くの人々の心をとらえました。その後、英語詞を手がけたのは名作詞家ジョニー・マーサーであり、彼の感傷的な歌詞によって「Autumn Leaves」としても世界的に親しまれるようになりました。ジョニー・マーサーは今回の演奏曲の「酒とバラの日々」の作詞もしている方です。この曲はジャズミュージシャンたちにも愛され、無数のアレンジや演奏が生まれた結果、今では“ジャズ・スタンダード”の代名詞ともなっています。

また、穏やかな旋律ゆえに BGM としても広く使われ、誰もが一度は耳にしたことのある存在となりました。「枯葉」は、芸術性と大衆性を併せ持ち、時代や国境を超えて人々の記憶に寄り添う永遠の名曲になったのではないのでしょうか。



【All of Me】

All of Me は、1931 年にジェラルド・マークスとセイモア・シモンズによって作曲されたポピュラーソングです。アメリカの歌手ベル・ベーカーが初めて歌い、ラジオ放送を通じて注目を集めました。

翌年ポール・ホワイトマン楽団やルイ・アームストロングが録音したことで一気に人気を広まり、以来ジャズのスタンダードとして数多くのアーティストに愛され続けています。軽快で明るいメロディーに対し、歌詞は「私のすべてを奪って」という失恋の痛みを訴える内容であり、その対比が聴く者の心に深い余韻を残します。いわば、表面上の明るさの中に切なさが潜む「トーチソング（恋に破れた女性の心情を歌う歌）」の代表といえます。時代を超えて演奏され続ける背景には、たくさんの人々の心に寄り添う温かさと哀しみの両面を持っていることがこの曲をより魅力的なものにしているからではないでしょうか。

ぜひ今回の演奏は、歌詞の意味も知ってから聞いてみて頂きたいです！



【Moanin'】

『モーニン (Moanin')』は、1958 年にアート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズによって発表された名曲であり、ピアニストのボビー・ティモンズが作曲しました。ゴスペルのコール・アンド・レスポンスを思わせる印象的なイントロは、牧師の息子であるティモンズが幼少期に親しんだ教会音楽から着想を得たもので、ジャズにソウルやブルースの要素を融合させた・ファンキー・ジャズを代表する楽曲として知られています。ちなみに、ゴスペルとは、アメリカで発展したキリスト教の宗教音楽ジャンルであり、力強いボーカル、手拍子や足踏みなどリズム、コール&レスポンスといったスタイルが特徴です。

『モーニン』は、サックス奏者ベニー・ゴルソンの参加により音楽的完成度を高め、ブルーノート・レーベルの象徴的名盤となりました。1961 年のジャズ・メッセンジャーズ初来日公演では、日本の聴衆に強烈な印象を残し、当時は蕎麦屋の出前持ちが口笛で吹くほどの流行ぶりだったといわれています。時代を超えて愛され続け、CM やテレビ番組にもたびたび使用される『モーニン』は、ジャズが持つ黒人音楽の魂を体現した曲と言えるでしょう。



【Fly me to the moon】

実は「Fly me to the moon」は当初この楽曲の名前ではありませんでした。簡単に「Fly me to the moon」の歴史について紹介します。1954年に作詞作曲家のバート・ハワードによって「In Other Words」という曲名で作られました。この時は4分の3拍子の曲でした。クリス・コナー、ジョニー・マーティス、ポーシャ・ネルソン、ナンシー・ウィルソンといった歌手たちがこの曲をカバーしています。1962年に、作曲編曲家のジョー・ハーネルがボサノヴァ風書き直したもので4分の4拍子になりました。曲の人气が高まるにつれて、歌詞の最初に出てくる

「Fly me to the moon」とこの曲を呼ぶ人が増えていき、「Fly me to the moon」の曲名で世間に知られていくようになります。その後1964年にフランク・シナトラがカバーしたものが爆発的にヒットしました。皆さんも一度は耳にしたことがあるかもしれないですね。

1960年代といえばアメリカでアポロ計画の真っ只中です。そのため、月に連れて行ってもらえるのは近未来の出来事と考える人が多く、より人々がロマンスを感じながら聴いていたのでしょう。シナトラ・バージョンの録音テープは、アポロ10号・11号にも積み込まれ、人類が月に持ち込んだ最初の曲にもなっています。

日本では、1995年～1996年放送のテレビアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」のエンディングテーマに用いられたり、歌手の宇多田ヒカルがカバーしていたりとジャズの中では若い世代にも知名度の高い曲です。このように「Fly me to the moon」は様々なアーティストの様々なバージョンが存在しています。この曲のロマンチックな雰囲気をもどくバージョンで一番感じ取れるのかは人それぞれだと思います。皆さんも一番好きな「Fly me to the moon」をぜひ探してみてください。

(Fly me to the moon 次ページにつづく)

【歌詞と和訳】

Fly me to the moon And let me play among the stars
Let me see what spring is like On jupiter and mars
In other words hold my hand In other words darling kiss me
私を月へ連れてって 星々に囲まれ歌ってみたい
どんな春が来るのかな 木星や火星では
言いかえれば手を握って 言いかえればキスして欲しい

Fill my heart with song And let me sing forever more
You are all I long for All I worship and adore
In other words please be true In other words I love you
私の心を歌で満たして そしてずっと歌わせて
あなたは私が待ち望んでいたすべて 尊敬と愛情のすべて
言いかえればどうか誠実でいて 言いかえれば愛してる



【Hit The Road Jack】

シンプルな曲構成で音の数が多いこの楽曲はソウルの神様と呼ばれたレイ・チャールズによってリリースされ1961年にアメリカでシングルチャート1位に選ばれました。聴衆を惹きつけるようなパンチの強い曲であり1度聞くと中々忘れられないリズムですよね。同じフレーズを何度も繰り返すという曲の構成、演奏者のセンスが問われるような曲ともいえます。

この曲を日本語に訳すと「出ていけジャック」です。この曲は女性が男性に「出ていけ」と怒鳴り、男性は必死に抵抗するも荷物をまとめて出て行かなければならない状況を表している曲です。さらに、男性はこの状況をまだ本気だと思っていないのがまたこの曲に深みを与えます。1960年頃は男尊女卑が目立つ時代でしたが、そんな中でも、男性が主導権を握りきれず女性に突き放されてしまうという置かれてる状況に声をあげて抗うというジャズの姿勢を示した一曲です。

そして、何と言ってもHit the road jackはリズム・アンド・ブルース、今で言うR&B音楽の黄金期の時代の曲です。R&Bとは、元々レイス・ミュージックとも呼ばれていましたが、人種でレコードを分けるのは時代にそぐわないとしてR&Bとよばれるようになりました。



【Take the A train】

Take the A trainは邦題「A列車で行こう」でもよく知られているジャズのスタンダードナンバー。デューク・エリントン楽団のピアニスト兼作編曲者であるビリー・ストレイホーンによって1941年に作られました。

【歌詞】

You must take the "A"-Train
To go to Sugar Hill way up in Harlem
If you miss the "A"-Train
You'll find you missed the quickest way to Harlem

A列車に乗るように
ハーレムのシュガーヒルへは
もしA列車を逃したら
ハーレムへの最速の行き方を逃すことになる

Hurry - get on now it's coming
Listen - to these rails a-thrumming -
All aboard, get on the "A"-Train
Soon You will be on Sugar Hill in Harlem

急げ、乗れ、電車がくるぞ
線路がゴトゴト言い出した
全員乗車！A列車に乗れ
もうすぐハーレムのシュガーヒルに到着だ

(Take The A train 次ページにつづく)

日本では、美空ひばりが1955年発表のシングルで日本語詞のカバーを発表していたり、2004年公開の日本映画「スウィングガールズ」で、楽器に触れたこともない主人公たちが最初に覚える楽曲として使用されたりしています。

曲名にもあるA列車というのは、アメリカのニューヨークにて、快速運転を行う「A」系統の列車のことです。シュガーヒルというのは、ハーレムという地区にあるハーレム随一の高級住宅街です。1920年代頃、ハーレム地区は黒人たちがたくさん住んでいた場所で毎晩スウィングの曲が流れるダンスクラブがあるなど、かなり文化的な芸術的な街だったと言われています。

ジャズに溢れたシュガーヒルに一刻も早く行きたい！そのためには快速のA列車に乗ろう！皆で音楽を楽しむぞ！という曲です。JAZZ 研究部に入ってジャズに魅了された私たち部員の気持ちと重なるようにも思います。まだまだジャズ初心者ですが、ジャズが好き、ジャズを楽しみたいという気持ちは誰にも負けません。そんな私たちが演奏するTake the A trainをどうぞお楽しみください♪



【酒と薔薇の日々】

この曲は1962年にヘンリー・マンシーニにより作曲された、映画「酒とバラの日々」の主題歌です。映画「酒とバラの日々」は1962年に製作されたアメリカ映画です。alcoholism（アルコール依存症）に溺れていく夫婦の悲劇的な転落が描かれており、快楽は酒、幸福はバラと表現され、次第に破滅へと導く様を描かれた物語です。また、曲「酒と薔薇の日々」はアカデミー歌曲賞を受賞しました。

ここで「酒と薔薇の日々」の歌詞で好きな所、私なりの解釈を書いてこうと思います。

・ (The days of wine and roses laugh and run away like a child at play)

【和訳：酒と薔薇の日々は、遊んでいる子供のように笑い、そして走り去ってゆく】

酒は快楽、薔薇は幸福を象徴しているのではないのでしょうか。

また、「遊んでいる子供のように」は後先考えず自由そのものであり、とても無邪気で楽しそうである様子が想像できますね。そして、それは走り去って行ってしまうため、その無邪気で楽しい日々は一瞬で去ってしまうでしょう。

・ (The lonely night discloses just a passing breeze filled with memories of the golden smile that introduced me to the days of wine and roses and you)

【和訳：孤独な夜は、ほんのひと時の間だけ、そよ風を吹かせる。僕を、酒と薔薇そして君がいた日々へと誘った。

あの輝くような笑顔の思い出で満たされたそよ風を】

(酒と薔薇の日々 次ページにつづく)

ここでは、アルコール中毒になる前の幸せな頃を思い出すことをそよ風に例えることで、思い出に浸るというよりは、ふと思い出すような感じの印象を受けます。

原曲はそよ風のようなふわ～とした感じで、少し悲しげに幸せな頃を思い出す様な描写が思い浮かびます。しかし、JAZZ 研のサクソが入った演奏になると、サクソの楽しげな音色から2人が楽しかった頃が思い浮かぶのではないのでしょうか。原曲との違いも感じながら楽しんで頂きたいです。

【ナウシカ・レクイエム】

この曲は1984年に公開された宮崎駿監督のアニメ映画「風の谷のナウシカ」の挿入歌で、久石譲が作曲しました。映画では終盤で流れており独特のメロディと静かで落ち着いた雰囲気が、多くのファンに愛されています。今回はそんな曲のジャズアレンジバージョンです。ジャズならではのビート感とグルーブでカッコよくムーディーな曲にアレンジされています。テーマの部分はサクソとフルートのハーモニーを、ソロパートのところではフルートソロとサクソソロの掛け合いをお楽しみください♪

【最後に】

本日は最後まで演奏をお聴きいただき、誠にありがとうございました。フレッシュャーズ・カンファランスという貴重な学びの場の後のこのような交流の機会にお招きいただきましたことを大変光栄に思います。初心者が多いJAZZ 研究部ですが、私たちの演奏が研究発表を終えられた皆さまの憩いの時間となり、交流のひとつきを少しでも彩ることができていれば幸いです。

今回の演奏会は、私たちにとっても貴重な経験となりました。皆様に少しでもJAZZの魅力や音楽の楽しさを感じていただけたなら、JAZZ 研究部の活動としてこれ以上ない喜びです。今後もJAZZ 研究部は、多くの方々にJAZZや音楽を楽しんでいただけるよう活動してまいります。本日は誠にありがとうございました。



【JAZZ 研究部について】

◎在籍部員数

→約 90 名

◎在籍部員の所属学部、学科

→薬学部

人文社会学部(メディア文化コース、保育・幼稚園コース、小学校・特別支援コース、経営コース、トレーナー・スポーツ経営コース、福祉コース)

ヒューマンケア学部(看護学科)

健康メディカル学部(健康栄養学科、医療科学科救急救命士コース)

・年間行事

- 3 月 みま～も cafe での演奏(中野区桃園区民活動センター)
- 4 月 新入生歓迎会
- 5 月 部内総会、部内演奏会
- 6 月 親睦会
- 7 月 日本医療薬学会 第 9 回 フレッシュヤーズ・カンファランス懇親会での演奏
- 9 月 部内総会、地域連携部の健康茶房で演奏(本学内 ComoRevi にて)
- 10 月 健幸プラザみどり館上高田での演奏
阿佐ヶ谷ジャズストリートに演奏出演
- 11 月 梟祭(池袋キャンパス文化祭)でのステージ演奏、
四季祭(中野キャンパス文化祭)でのステージ演奏、JAZZ 喫茶出店
- 6 月、7 月、8 月、3 月オープンキャンパスでの演奏
通年でレコード集めや喫茶店巡り



@JAZZ._THU

→Instagram では私たちの活動の様子を載せています！
JAZZ を楽しんでいる姿をぜひご覧ください♪

jazz.thu.nakano@gmail.com

→イベントのお誘いや質問など何でも気軽にお問い合わせください！

2026 年 7 月 4 日(土) フレッシュヤーズ・カンファランス
帝京平成大学中野キャンパス JAZZ 研究部

〒164-8530

東京都中野区中野 4-21-2